

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6810460号
(P6810460)

(45) 発行日 令和3年1月6日(2021.1.6)

(24) 登録日 令和2年12月15日(2020.12.15)

(51) Int.Cl. F I
A O 1 K 15/02 (2006.01) A O 1 K 15/02

請求項の数 4 (全 7 頁)

| | |
|---|--|
| <p>(21) 出願番号 特願2017-227077 (P2017-227077) (22) 出願日 平成29年11月27日(2017.11.27) (65) 公開番号 特開2019-92479 (P2019-92479A) (43) 公開日 令和1年6月20日(2019.6.20) 審査請求日 令和1年8月7日(2019.8.7)</p> | <p>(73) 特許権者 000111638 ドギーマンハヤシ株式会社 大阪府大阪市東成区深江南1丁目16番1 4号 (74) 代理人 100120341 弁理士 安田 幹雄 (72) 発明者 角辻 智也 大阪府大阪市東成区深江南1丁目16番1 4号 ドギーマンハヤシ株式会社内 審査官 吉田 英一</p> |
|---|--|

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ペット用玩具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

ペットが噛みちぎり可能な物体(A)を複数個の分割体(A1、A2)で構成し、各分割体(A1、A2)の分割面(1p、2p)を合わせて結合する結合手段(3)を設けたペット用玩具であって、

前記結合手段(3)は、一方の分割体(A1)の分割面(1p)と交差する外周面(1f)に面結合する2枚1組の面ファスナの一方を設けた結合受体(5)と、他方の分割体(A2)の外周面(2f)から一方の分割体(A1)の外周に突出して前記結合受体(5)の面ファスナと面接して結合する前記面ファスナの他方を設けた結合舌片(6)とを有することを特徴とするペット用玩具。

【請求項2】

前記結合受体(5)の面ファスナは一方の分割体(A1)の表裏の外周面(1f)にそれぞれ1又は複数設けられ、前記結合舌片(6)の面ファスナは結合受体(5)の面ファスナに対向して他方の分割体(A2)の表裏の外周面(2f)から突設されていることを特徴とする請求項1に記載のペット用玩具。

【請求項3】

前記他方の分割体(A2)の表裏各面から一方の分割体(A1)の表裏各面に突出する取付部(7)が設けられ、この取付部(7)に複数の結合舌片(6)の面ファスナが取り付けられていることを特徴とする請求項2に記載のペット用玩具。

【請求項4】

前記各分割体（A 1、A 2）の分割面（1 p、2 p）には、ペットが噛みちぎり可能な物体（A）を断面した意匠が施されていることを特徴とする請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載のペット用玩具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、犬等のペット動物が噛み付いてちぎって楽しむことのできるペット用玩具に関する。

【背景技術】

【0002】

縄片、又は網片などの紐片部材をペットの噛みものとして形成したペット用玩具であって、上記紐片部材に、生分解樹脂部材を補助的に具備し、前記生分解樹脂部材を、前記紐片部材を挿通可能な環状に形成し、前記生分解樹脂部材に上記紐片部材を挿通し、該紐片部材における長さ方向の各端側に、結紐部を形成して、上記紐片部材を、上記生分解樹脂部材を保持可能なボーン型にしている（請求項 1、2）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 1 0 0 0 1 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

前記従来技術は、ペットの自発的、且つ、継続的に惹きつけるとともに、噛む動作を誘発し、遊びを通じてストレス発散効果も得ることができるが、ペットが本能的に持っている噛みちぎり動作、壊す動作、狩猟動作等を行うには満足のものではない。

本発明は、このような従来技術の問題点を解決できるようにしたペット用玩具を提供することを目的とする。

【0005】

本発明は、ペットが噛みちぎり可能な物体を複数個の分割体で構成しかつそれらを結合手段で結合しておくことにより、噛む動作だけでなく、ちぎり動作、壊す動作等ができるペット用玩具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明における課題解決のための具体的手段は、次の通りである。

第 1 に、ペットが噛みちぎり可能な物体 A を複数個の分割体 A 1、A 2 で構成し、各分割体 A 1、A 2 の分割面 1 p、2 p を合わせて結合する結合手段 3 を設けたペット用玩具であって、

前記結合手段 3 は、一方の分割体 A 1 の分割面 1 p と交差する外周面 1 f に面結合する 2 枚 1 組の面ファスナの一方を設けた結合受体 5 と、他方の分割体 A 2 の外周面 2 f から一方の分割体 A 1 の外周に突出して前記結合受体 5 の面ファスナと面接して結合する前記面ファスナの他方を設けた結合舌片 6 とを有することを特徴とする。

【0007】

第 2 に、前記結合受体 5 の面ファスナは一方の分割体 A 1 の表裏の外周面 1 f にそれぞれ 1 又は複数設けられ、前記結合舌片 6 の面ファスナは結合受体 5 の面ファスナに対向して他方の分割体 A 2 の表裏の外周面 2 f から突設されていることを特徴とする。

第 3 に、前記他方の分割体 A 2 の表裏各面から一方の分割体 A 1 の表裏各面に突出する取付部 7 が設けられ、この取付部 7 に複数の結合舌片 6 の面ファスナが取り付けられていることを特徴とする。

【0008】

第 4 に、前記各分割体 A 1、A 2 の分割面 1 p、2 p には、ペットが噛みちぎり可能な

10

20

30

40

50

物体 A を断面した意匠が施されていることを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

本発明によれば、分離結合物体で、ペットに噛む動作だけではなく、ちぎり動作、壊す動作等を行わずことができる。

即ち、請求項 1 に係る発明は、結合手段 3 は、一方の分割体 A 1 の結合受体 5 の面ファスナと、他方の分割体 A 2 の結合舌片 6 の面ファスナとを有するので、分割体 A 1、A 2 を強固に結合しておくことができ、ペットが噛むだけでは分離できず、ペットにちぎり動作、壊す動作等を促すことができる。

【0010】

請求項 2 に係る発明は、結合受体 5 の面ファスナは一方の分割体 A 1 の表裏の外周面 1 f にそれぞれ 1 又は複数設けられ、結合舌片 6 の面ファスナは結合受体 5 に対向して他方の分割体 A 2 の表裏の外周面 2 f から突設されているので、分割体 A 1、A 2 の結合に必要な強度をもたせることができる。

請求項 3 に係る発明は、他方の分割体 A 2 の表裏各面から一方の分割体 A 1 の表裏各面に突出する取付部 7 が設けられ、この取付部 7 に複数の結合舌片 6 の面ファスナが取り付けられているので、結合舌片 6 を複数設ける場合にも、結合舌片 6 が個別にペットに噛みちぎられるのを防止できる。

【0011】

請求項 4 に係る発明は、分割面 1 p、2 p に物体 A を断面した意匠が施されているので、ペットに噛む、ちぎる、壊す等の達成感を与えることができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図 1】本発明の第 1 実施形態を示す斜視図である。

【図 2】第 1 実施形態の分離斜視図である。

【図 3】本発明の第 2 実施形態を示す斜視図である。

【図 4】第 2 実施形態の分離斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0013】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

図 1、2 に示す第 1 実施形態において、ペット用玩具 1 は、ペットが噛みちぎり可能な物体 A を途中で切断した状態の複数個の分割体 A 1、A 2 で構成しており、両分割体 A 1、A 2 はそれぞれの分割面 1 p、2 p を合わせて、結合手段 3 で結合されている。

物体 A は、表皮布の内部に綿、繊維材等を挿入して扁平状の肉付きボーンに模して形成されたぬいぐるみ玩具であり、骨にひとかたまりの肉片が付いた形状になるように 2 分割されて分割体 A 1、A 2 を構成している。

【0014】

分割体 A 1、A 2 は結合した状態で両肉片が連続する意匠になり、また、それぞれの分割面 1 p、2 p には肉を断面した意匠が施されている。また、複数個の分割体 A 1、A 2 の少なくとも 1 個の内部には、泣き笛、セロファン等の外力を受けて音を発生する音発生体 8 が設けられている。

分割体 A 1、A 2 は分割面 1 p、2 p と交差する外周面 1 f が表裏面を形成しており、この表裏面は同一又は異なる意匠が施されており、一方の分割体 A 1 の外周面 1 f の表裏面には結合受体 5 が設けられている。

【0015】

この結合受体 5 は、鉤状とパイル状の表面を持つ 2 枚 1 組からなる面ファスナの一方が使用されており、分割体 A 1 の分割面 1 p 近傍の外周面 1 f に達着又は接着されている。

他方の分割体 A 2 は、外周面 2 f から一方の分割体 A 1 の外周に突出して前記結合受体 5 と結合する結合舌片 6 が設けられている。

この結合舌片 6 は、鉤状とパイル状の表面を持つ 2 枚 1 組からなる面ファスナの他方が

10

20

30

40

50

使用されており、分割面 2 p と交差するように分割体 A 2 の外皮布の一部を舌状に突出し取付部 7 を形成し、その取付部 7 の裏面に逢着又は接着されている。

【 0 0 1 6 】

前記結合受体 5 は、分割体 A 1 の外周面 1 f に間隔をおいて 2 つ設けられ、前記結合舌片 6 は分割体 A 2 の取付部 7 の裏面に結合受体 5 に対向するように 2 つ設けられている。前記結合受体 5 と結合舌片 6 とは 3 つ以上でもよく、また長いものを 1 つでもよい。また、結合受体 5 を複数にし、結合舌片 6 を複数の結合受体 5 と同時に対向する長いものにしてもよい。

【 0 0 1 7 】

前記玩具 1 は、結合受体 5 と結合舌片 6 とで分割体 A 1、A 2 を結合して 1 個の肉付きボーンにした状態で犬等のペットに与えると、ペットは喜んで分割体 A 1 又は分割体 A 2 にかぶりつき、噛んだり、かじったり、手足の爪を引っ掛けたりする。

また、ペットは口及び手足を使って、一方の分割体 A 1 に噛みつきながら他方の分割体 A 2 を引っ張って、分割体 A 1 から分割体 A 2 を分離する、即ち、玩具 1 を引き裂いたり、壊したりする。これにより噛みちぎり感覚、壊し感覚、狩猟感覚等をペットに与えることができる。

【 0 0 1 8 】

さらに、ペットは口及び手足を使って、他方の分割体 A 2 の結合舌片 6 のみを結合受体 5 から剥がそうと考えることもできる。

前記玩具 1 が引き裂かれたり、破壊されるということは、結合手段 3 の結合力に抗して分割体 A 1 と分割体 A 2 とを分離することであり、結合舌片 6 が結合受体 5 から離れるとき、バリッと音がする。この音の発生も分割体 A 1、A 2 内部の音発生体 8 を鳴らすことと同様な感覚をペットに与えることができる。

【 0 0 1 9 】

図 3、4 に示す第 2 実施形態において、ペット用玩具 2 1 は、ペット用玩具 1 と同様に物体 A を複数個の分割体 A 1、A 2 で構成し、両分割体 A 1、A 2 を面ファスナ等の結合手段 3 で結合しているが、物体 A は、表皮布の内部に綿、繊維材を挿入してパイナップルに模して形成されている。

また、結合手段 3 は、一方の分割体 A 1 の分割面 1 p 近傍の外周面 1 f に 2 つの結合受体 5 が離れて逢着されているのと同様に、他方の分割体 A 2 の外周面 2 f から 2 つの取付部 7 が離れて形成されかつそれぞれの裏面に結合舌片 6 が逢着されている。

【 0 0 2 0 】

玩具 2 1 は、音発生体 8 を分割体 A 1 のみに内蔵しているが、分割体 A 2 にも内蔵してもよい。また、取付部 7 を割愛して、結合舌片 6 の一端を他方の分割体 A 2 の外周面 2 f に直接逢着し、結合舌片 6 の他端を外周面 2 f から一方の分割体 A 1 の外周に突出させようにしてもよい。

なお、本発明は前記実施形態における各部材の形状及びそれぞれの前後・左右・上下の位置関係は、図 1 ~ 4 に示すように構成することが最良である。しかし、前記実施形態に限定されるものではなく、部材、構成を種々変形したり、組み合わせを変更したりすることもできる。

【 0 0 2 1 】

例えば、物体 A は、肉無しボーン形状、鳥形状、魚形状等であってもよく、また、3 分割、4 分割等に分割できるようにしてもよい。

結合手段 3 は物体 A の外周を結合しているが、分割面を結合する面ファスナを設けてもよい。即ち、分割面面ファスナは、一方の分割体 A 1 の分割面 1 p に 1 又は複数の結合受体 5 を逢着し、他方の分割体 A 2 の分割面 2 p に結合受体 5 と対向する 1 又は複数の結合舌片 6 を逢着する。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 2 】

1 ペット用玩具

10

20

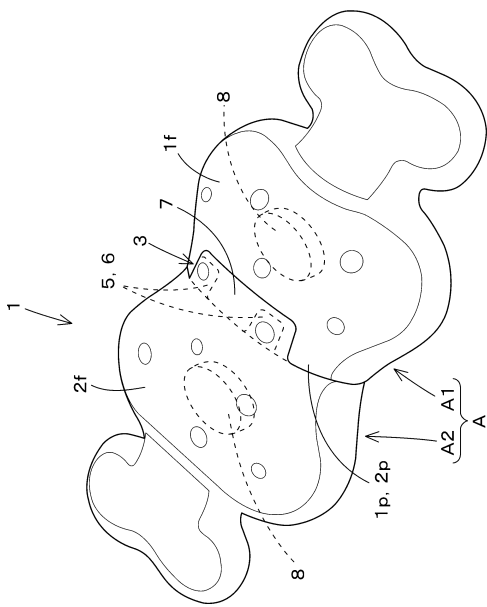
30

40

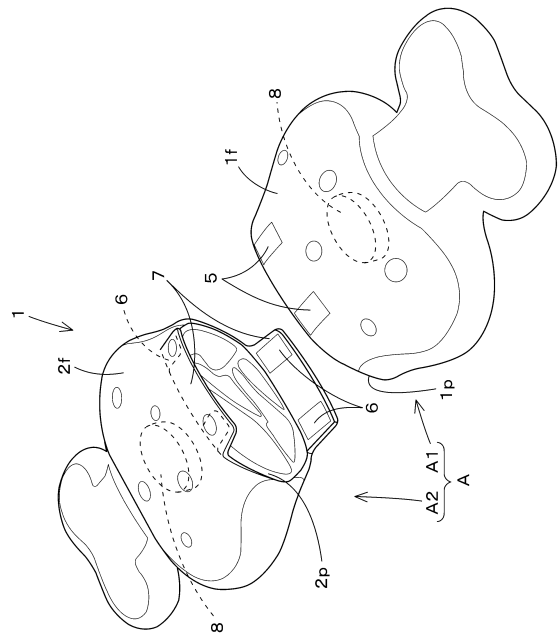
50

- 1 f 外周面
- 1 p 分割面
- 2 f 外周面
- 2 p 分割面
- 3 結合手段
- 5 結合受体
- 6 結合舌片
- 7 取付部
- 8 音発生体
- 2 1 ペット用玩具
- A 物体
- A 1 分割体
- A 2 分割体

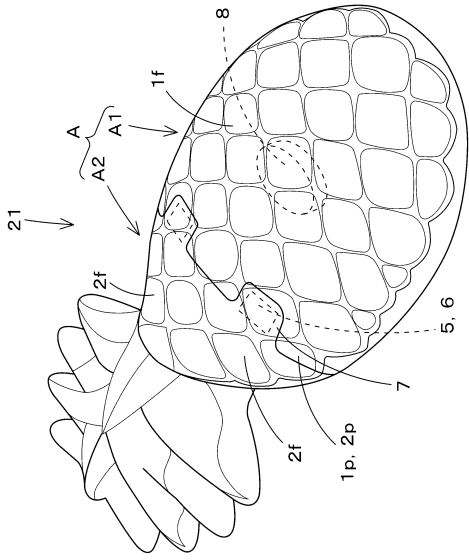
【図1】



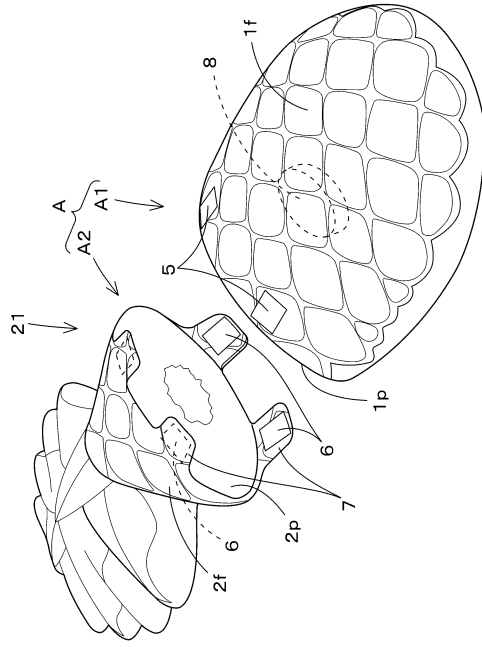
【図2】



【 図 3 】



【 図 4 】



フロントページの続き

- (56)参考文献 米国特許出願公開第2006/0225667 (US, A1)
米国特許出願公開第2004/0198156 (US, A1)
特開昭61-076183 (JP, A)
登録実用新案第3050930 (JP, U)
登録実用新案第3110000 (JP, U)
特開平02-055077 (JP, A)
特開2008-142010 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A01K 15/02
A63H 1/00-37/00